

1. 職名・氏名 准教授 東村 玲子

2. 学位 学位 博士（水産学）分野 漁業経済学 授与機関 北海道大学
授与年月 2000年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産経済学（2単位 毎年開講） 2年生 （2017年度以前～2019年度） 15コマ	
② 内容・ねらい 水産業を経済学的視点で考察する素養を身につけることを目的とする。経済学の基礎理論を習得することから始め、具体的事例を挙げながら解説する。2018年の漁業法改定の解説に加え、日本の水産業の実態とTACや資源管理型漁業の理論や実態を概観し、日本の水産業の展望を理解する。ブランド理論と水産物のブランド化を紹介する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 水産業の実態をただ「知る」だけでなく、経済学や漁業管理の基礎的理論を習得することによって、日本や世界の水産業の実態への認識と問題意識を深める様に講義を進めている。また板書を多くすることにより、理解を深めやすくしている。講義内容を自分の身の周りのことに引き付けて考察したり、講義の理解度が分かるようなミニ課題を実施。理解度が低いことが判明した場合には次回の講義の時に解説を加える。2018年の漁業法改定について、最新の情報を解説した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 国際漁業論（2単位 毎年開講） 3年生 （2017年度以前～2019年度） 15コマ	
② 内容・ねらい 漁業では同じ資源を同時に複数の国が利用することが多いため、必然的に国際問題を引き起こす。こうした国際漁業管理制度の内容とそれに関わる国際問題の実態を理解する。特に捕鯨問題とカナダとEU間で1995年に起きた「カラスガレイ戦争」に焦点を当てる。さらに、また、2015年以降、大きな問題となっている日本近海のクロマグロの漁業管理における国際問題についても解説する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実際の国際紛争の事例を概説することにより、国際漁業問題への関心を持たせる様に工夫している。特に、捕鯨問題は政治的背景や各国の主張を紹介し、学生に自分の意見を考えさせることにより「勉強」だけでなく「研究」の部分も垣間見せるようにしている。板書を多くすることにより理解を深めやすくしている。講義後には学生の意見や考察を書かせるミニ課題を課している。この課題の結果、日本の調査捕鯨に関する国際司法裁判所の判決についての追加の考察の要望があり取り入れた。2015年度、2016年度以降は、太平洋のクロマグロについての水産庁の資料を用いて解説をした。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品流通調査演習（1単位 毎年開講） 2年生 （2017年度以前～2019年度） 15コマ	
② 内容・ねらい 調査計画を立て、大阪中央卸売市場や生活協同組合（コープこうべ）、黒門市市場などを訪問して担当者からの会社等の説明を受ける。その際の質疑応答も重視する。資料収集を行い、その調査結果をレポートにまとめる。	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

調査を行うことにより流通の実態を理解するだけでなく、現場で体感することを重視する。また、実務担当者と直接話し合うことによって社会人とのコミュニケーション能力を高めるために質疑応答時間を十分に確保している。こうした積極的な質疑応答への参加が加点されることは事前に周知している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

科学英語Ⅰ (2単位 毎年開講) 3年生 (2017年度) 15コマ

② 内容・ねらい

海洋生物資源関連の英語で書かれた文献を講読し、基本的な専門用語を修得した上で、内容を適切に理解し、外国語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

英語を読んで訳すのは、毎回くじ引きで順番はランダムにかつ全員が行える様にした。最後の30分は学生が考えた課題につき、英語で作文をさせた。かつ、毎回3名にそれを板書させ、添削を行うと共に全員に自分の英作文を読み上げさせた。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

科学英語Ⅱ (3単位 毎年開講) 3年生 (2017年度以前～2019年度) 15コマ

② 内容・ねらい

Takatoshi Ando 著 Naoyuki Tao and James Colyn 訳の「The Hokkaido Fishermen's Liberation Movement」を用いて、北海道における漁業協同組合の黎明期の組合運動の実態に関する理解を高めると共に英文を全訳せずに(分からない単語だけを調べて)読解する能力を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ゼミ生には、なるべく単語だけを調べるだけの予習をしてくる様に指導している。当日は、順番に本文を読み翻訳する。これにより、英語を英語として理解する能力を身につける。また、学生1人が翻訳終了分を次週までに日本語にて要約することにより内容の理解を助ける。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

専攻演習 (2単位 毎年開講) 4年生 (2017年度以前～2019年度) 30コマ

② 内容・ねらい

卒業論文を執筆するにあたり、研究課題を設定と研究計画の作成から開始する。その上で、必要となる素養(経済学や流通論や調査手法)を身につけさせ、同時に研究の方法論の検討を綿密に行い、実際の論文執筆へとつなげていく。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究課題の設定にあたり、可能な限り学生の自主性を尊重している。夏休み半ばまでは研究室単位で行い、毎週または各週で研究の成果を発表させる。そして最後は学年全体で自分の研究の成果を発表することによりプレゼンテーション能力をつけることも目的としている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

海とくらし (2単位 毎年開講) 1年生 (2017年度以前～2019年度) 1コマ

② 内容・ねらい

福井県で最も有名である「越前がに」について、そもそも「ブランドとは何か」ということから始め、越前がにがブランド化に成功していること、またその成功の理由について、主として消費者へのアンケート調査での結果を基に解説する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

最初に誰でも知っている様なブランド品を挙げて(マクドナルドの様な大衆ブランドも含む)、ブランド理論の基礎を説明して、学生の興味を惹くことから始め、福井県外出身者はもとより県内出身者でも実際には食べたことがない「越前がに」の県内水産物として最高級ブランドを実現していることを解説する。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 海洋生物資源フィールド演習 (2単位 毎年開講) 1年生 (2018年度) 10コマ</p> <p>② 内容・ねらい 課題研究として、「消費者の水産物のイメージを探る」というテーマで指導した。大学に入って、まず研究とはどんなものかを知り、グループでそれに取り組むことによって協同作業の楽しさや協調性の重要さを学ぶ。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 アンケート調査を手法とした。学生自身やその親等のツテで年代別、地域を分散したものを対象としたものにするように夏休み中に調査を実施した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 水産政策学特論 (1単位 毎年開講) 修士課程 (2017年度以前～2019年度)</p> <p>② 内容・ねらい 漁業に関する政策のうち、今日的な論点を取り上げて、理解を深めることを目的としている。そのため、漁業管理の手法である、個別割当 (IQ) や譲渡可能個別割当 (ITQ) の理論を理解する。この他、日本近海のクロマグロの漁業管理や漁業法改定も取り上げる。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 トピックとトピックの間に、それらに関する「ディスカッションテーマ」を提示し、学生が自主的に発言する時間を設けることにより、自分の意見を考えると共に他の人の意見も聞く。なお 2018年度は講義中にクロマグロの漁業管理や水産政策について水産庁から新しい政策が打ち出されたので、私が出席した会議での議論などの最新情報を基に解説したのが好評であった。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 海洋社会科学 (2単位) 修士課程 (2017年度～2019年度) 8コマ</p> <p>② 内容・ねらい 水産業は重要な食料産業であると共に、それを支える漁村は様々な機能を持っているため漁村の活性化と漁業振興は両立すべきである。また近年は日本近海、遠洋での各国との国際的な問題も漁業経営に影響を与えている。かかる視点から日本の水産業をグローバル・ローカル両方の視点から考察して行く。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 水産白書をテキストとし、各受講生に1章ずつ担当してプレゼンテーションを行ってもらった上で、私が水産庁の委員として水産白書作成に携わっていることを活かして、解説を行った。学生によるプレゼンテーションは自分の担当部分の理解に役立ち、他の学生の担当部分はプレゼンテーションの方法を学ぶのに有益だったと学生から好評だった。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 卒業論文 (8単位) 4年生 (2017年度以前～2019年度)</p> <p>② 内容・ねらい 卒業論文を執筆することは、4年間の当学科での勉強・研究の集大成であることを自覚させ、また設定した課題に自主性をもって取り組むことにより物事を多面的に考察する能力を身につけさせることを目的としている。さらには執筆の過程において、研究のまとめ方を身につけさせることもねらいとしている。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 6月頃までは、担当教員を決めずに学生に自主的にテーマ設定を行える環境を確保している。担当教員を決めた後は、週に1回ずつ、私が担当する学生3名と私の4名でゼミを行い、それぞれに研究テーマについてディスカッションを行う。お互いの進捗を測る上でもこの方式が良いと学生と相談して決めている。1月以降は、個別指導を行い、卒業論文を完成させることとしている。</p>

(2)非常勤講師担当科目	
① 担当科目名 (単位数) 開講学校名	ズワイガニの経済学 (1) 放送大学福井学習センター (2019 年度)
② 内容・ねらい (自由記述)	ズワイガニは福井県で最も有名な冬の味覚である。しかしながら、世界で最も漁獲量が多いのはカナダ大西洋岸で、米国アラスカ州でも漁獲されている。日本でも海外でもズワイガニの資源を持続的に利用するための漁業管理の工夫がある。また、外国産のズワイガニは漁獲地で一次加工が行われた後に、東南アジアで再加工されて日本に流通する。この講義では、ズワイガニを通して、天然資源を持続的に利用する工夫の国際比較を行うと共に、アジアの経済発展と無関係ではない漁獲から消費までの国際的なフードシステムについて考える。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)	この講義はズワイガニという一つの水産物を通して、国内外の漁業や水産加工業の実態とその比較、また国際関係について理解を深めることを目的としている。受講者の半分が福井県外在住であり、年代は 20 歳代から 80 歳代までと多様である。また受講目的や学力も様々である。しかしながら、当日までは上記の情報よりも細かいものは個人情報保護の点から教えられなかった。当日、受講者の様子を見ながら、講義のスピードや説明の細かさを工夫した。特に、90 分で受講者が飽きてこないように緩急付けるのには工夫が必要であった。
④ 本学における業務との関連性 (自由記述)	受講者が非常に多様であったため、講義のスキルアップに繋がったことは確実である。また、私がこれまで行って来たズワイガニに関する様々な研究を 8 コマに収めるように整理し直す作業が必要であった。しかしながら、これによって自分の研究を振り返ることが出来たので、非常に有益であった。本学の講義を行う際にも、こうした工夫が活かされると確信している。
(3)その他の教育活動	
学部・非常勤講師	「水産情報演習」(大西学氏) 2017 年度、2019 年度 「食品経済組織論」(濱田英嗣氏) 2018 年度
大学院特別講義	「浜の活力再生プランと漁村地域の活性化に向けた取組み」(麓貴光氏) 2017 年度～2018 年度

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①論文	(タイトル、共著者の有無 (共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名 (号数)、掲載 (受理) 年月日)
①-1	「東アジアの経済発展と水産食品企業の行動」加藤辰夫・東村玲子『地域漁業研究』第 57 巻第 2 号、137-152 頁、2017 年
①-2	「北部太平洋まき網漁業における試験的個別割当制度に関する一考察」大西学・東村玲子『政策科学』第 25 巻第 3 号、79-98 頁、2018 年度
①-3	東村玲子・大西学『『日本型 T A C』と個別割当ー日本海 A 海域ズワイガニ漁業管理からー』『地域漁業研究』第 58 巻第 3 号、136-143 頁、2018 年
②著書	(タイトル、共著者の有無 (共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等	(タイトル、報告学会 (大会) 名 (開催年月日)、共同報告者の有無 (共同報告の場合は主たる担当箇所))
③-1	「日本型 T A C と個別割当ー日本海 A 海域ズワイガニ漁業管理からー」東村玲子・大西学、地域漁業学会第 59 回大会、大東文化大学、東京都板橋区 (2017 年 10 月 28 日)
③-2	「北部太平洋まき網漁業における自主的 I Q の展開について」大西学・東村玲子、地域

<p>漁業学会第 59 回大会、大東文化大学、東京都板橋区（2017 年 10 月 28 日）</p> <p>③-3 大西学・東村玲子「我が国における資源評価と漁獲上限に関する研究」漁業経済学会第 65 回大会、東京海洋大学、東京都品川区（2018 年 6 月 3 日）</p> <p>③-4 東村玲子・加藤辰夫「ミャンマーの経済発展と水産加工業」漁業経済学会第 65 回大会、東京海洋大学、東京都品川区（2018 年 6 月 3 日）</p> <p>③-5 大西学・東村玲子「我が国における持続的な水産資源管理とその課題ー北部太平洋まき網漁業を事例にー」日本地域学会第 55 回大会、北海学園大学、札幌市、2018 年 10 月 7 日</p> <p>③-6 東村玲子「漁業管理の目的と数量管理の諸手法ーカナダ大西洋岸の事例からー」地域漁業学会第 60 回大会、近畿大学、奈良市（2018 年 10 月 28 日）</p> <p>③-7 東村玲子「新しい漁業法の下での漁業管理ーズワイガニ 2018 年漁期の異変ー」漁業経済学会第 66 回大会、東京海洋大学、東京都品川区（2019 年 6 月 30 日）</p> <p>③-8 東村玲子「新しい漁業法の個別割当ー太平洋のサバ類と日本海のズワイガニの比較ー」地域漁業学会第 61 回大会、長崎大学、長崎市（2019 年 11 月 30 日）</p> <p>④その他の公表実績</p>
<p>(2)学会活動等</p> <p>座長（“A Study on The Sea Cucumber Management System in FijiーA Cased Study of Kumi Village ー”, 「バヌアツのヤコウガイはなぜ増えたのか？」）地域漁業学会第 59 回大会（2018 年 10 月 28 日）</p> <p>座長【地域漁業学会第 60 回大会、2018 年 10 月 7 日】</p> <p>学会での役職など（学会名）</p> <p>漁業経済学会 理事 2017 年度以前～</p> <p>地域漁業学会 理事 2017 年度以前～</p> <p>地域漁業学会 国際交流委員 2017 年度以前～</p> <p>国際漁業学会 理事 2017 年度以前～</p> <p>学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）</p> <p>査読（地域漁業研究）2017 年度</p>
<p>(3)研究会活動等</p> <p>①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ズワイガニの漁業管理に関する聞き取り踏査（2017 年 8 月～11 月）石川県、福井県、兵庫県、鳥取県の漁業者各 2 名、各県水産課 ・北海道札幌市における北海道機船漁業協同組合連合会、カナダ政府札幌通商事務所に対する聞き取り調査（2018 年 3 月 1 日～7 日） ・ミャンマー連邦共和国での現地調査（2017 年 9 月 11 日～9 月 21 日） ・インドネシア共和国での現地調査（2018 年 2 月 10 日～2 月 15 日） ・ズワイガニの漁業管理に関する聞き取り踏査（2018 年 7 月～8 月）石川県、福井県、兵庫県、鳥取県の漁業者各 2 名、各県水産課 ・カナダ Newfoundland and Labrador 州での現地調査（2018 年 9 月 6 日～9 月 29 日）、州都 St. John's と漁村地域 St. Anthony に滞在。連邦政府、漁業者団体、水産加工・輸出業者の他、漁業者 10 名に対して聞き取り調査の実施。 ・ズワイガニの漁業管理に関する聞き取り踏査（2019 年 8 月）兵庫県、鳥取県の漁業者各 2 名、流通加工業者 ・ズワイガニの漁業管理に関する聞き取り調査。全国底曳網漁業連合会。（2019 年 8 月、11 月） ・太平洋サバ類の漁業管理に関する聞き取り調査。北部太平洋まき網漁業協同組合連合会。（2019 年 11 月、2020 年 1 月）

②その活動による成果

- ・ミャンマーの経済発展の度合いを2年ぶりに観測すると共に主としてエビ加工・輸出業について未だ一部にとどまるが外国市場に依存する経営実態を明らかにした。
- ・日本の水産会社が行っているズワイガニ再加工業（委託加工）とサケ類の水産加工業・輸出業の実態調査によりズワイガニのフードシステムの現状を明らかにした。
- ・日本海 A 海域（富山県沖～島根県沖）における TAC の下での自主規正（漁獲物の大きさ管理、漁期、航海辺りの漁獲数量管理）の実態把握
- ・ズワイガニを始めとして、タラ、カラスガレイ、エビの現地での漁業管理と漁業実態について知見を得た。特に数量管理という手法に焦点を当てて、2018 年 10 月に学会報告を行った。
- ・日本海 A 海域（富山県沖～島根県沖）における 2018 年漁期の状況把握（自主規制での対応の実態）と 2019 年漁期に向けた対応の把握。
- ・業界団体としてのズワイガニの漁業管理を含めた新しい漁業法への対応について。特に「ステークホルダー会合」の予定。
- ・業界団体としての太平洋のサバ類の漁業管理を含めた新しい漁業法への対応。特に「ステークホルダー会合」の予定と個別割当の導入に関して。

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

2017 年度 福井県立大学全学競争資金（D：教員研究費枠）60 万円 研究代表者
2018 年度 福井県立大学特別研究費（C：成果公表支援枠）1.1 万円 研究代表者

2016 年度～2019 年度 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2016 年度：90 万円 2017 年度：150 万円，2018 年度：50 万円，2019 年度：54.4 万円）

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）

福井県漁業調整委員会委員 漁業に関わる規制等の審議・決定 2017 年度以前～現在 年に約 10 回

福井県環境審議会委員 環境に関わる規制等の審議・決定 2017 年度以前～現在 年に約 2 回，2017 年度は環境基本計画策定のため年に 7 回

福井県公共事業等評価委員会委員 長期の公共事業等の継続可否を審議 2017 年度以前～現在 年に 1 回

福井県敦賀港地方港湾審議会委員 2017 年度以前～現在 敦賀港の計画変更の際の答申 年に 1 回程度

福井県福井港地方港湾審議会委員 2017 年度～現在 福井新港の計画変更の際の答申 年に 1 回程度

福井県資源管理協議会 外部有識者 2018 年度～現在 資源管理計画の自主的管理措置の履行確認（計画的に資源管理に取り組む漁業者を支援） 年に 2 回程度

水産庁水産政策審議会 企画部会（座長代理） 水産白書の作成、水産基本計画の策定 2017 年度以前～2019 年 7 月 年に 6 回（2016 年度は座長を 2 回）

水産庁水産政策審議会 資源管理分科会（2017 年度まで座長代理） TAC，TAE 等漁業管理措置の審議・答申 2017 年度以前～2019 年 7 月 年に 9 回

水産庁水産政策審議会 資源管理分科会 くらまぐろ部会委員 2018 年 8 月～2018 年 11 月 2 回出席の他，報告書の作成 クロマグロ資源の TAC 制度のあり方について集中的に審議

農林漁業保険審査会委員 漁業者等からの申し立てがあった際に会議が招集され審議 2017 年度以前～現在 2 年に 1 回 委員長・委員長代理の選考

②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） 教員免許状更新講習「水産食品流通と水産経済」（福井県立大学小浜キャンパス）2018年8月28日 福井テレビ出演『タイムリーふくい』「少子化！？カニ漁の今とこれから」2018年11月11日放送 日刊県民福井，中京新聞取材，2018年11月28日掲載 高志中学校の3年生の松永琉輝くん卒業研究聞き取り調査対応 2019年8月5日 秋田県の北羽新報（ほくうしんぼう）取材（ハタハタの漁業管理について）2019年12月29日掲載
⑦高大連携（開放講義等に関する連絡協議会が主催する講義、および高校が主催する活動）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 高校入試説明会（金津高等学校）2017年7月6日 高校入試説明会（羽水高校）2019年7月9日
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） 【全学】 教育研究委員会教職課程部会 2017年度～2018年度 研究等における人権擁護・倫理委員会ワーキンググループ 2018年度～2019年度 保健管理センター運営連絡会議委員 2019年度 【学部・学科】 学部情報関連委員会 学科内広報担当 2017年度以前～2018年度 障害学生支援担当 2017年度以前～2018年度 入試企画委員会 2017年度以前～2019年度 教育環境改善担当 2017年度以前～2019年度 JABEE委員会 2017年度以前～2019年度 2017年次生アドバイザー 2017年度～2019年度 図書館運営担当 2019年度 学科再編ワーキンググループ 2019年度

(3)学内行事への参加

(行事名、参加日時)

2018年8月5日にオープンキャンパスで保護者対応

2019年8月4日にオープンキャンパスで保護者対応

(4)その他、自発的活動など

(活動名、活動内容、活動期間)